

平成26年度 甲南学園 事業計画書

はじめに

科学技術（ITも含め）が著しく発展を遂げつつも、地球自然環境が大きく変わり、国際政治経済状況が激動する中であって、我が国の教育研究はその真価を問われています。その渦中にある私立学校法人は、わが国の長引く経済の低迷に加え少子化の加速により厳しい経営環境にも直面しています。これは全ての私学が量的競合から質的淘汰の時代に突入したことを意味しており、各私学は従来の共同体から淘汰に耐えられる経営体への転換をより早く進める必要性に迫られる一方で、建学の精神に基づき教育研究の質を個性輝くものに高め、その存在価値を自ら構築し、強く発信する必要に迫られています。

このような状況のなかで、本学においては、「人物教育の率先」を具現化する教育そして高い水準の研究成果を国際的に問うべく、教育研究環境の整備・向上に努めてきました。また、財政健全化のためのガイドラインを遵守し、財務体質を抜本的に革（あらた）め、財務基盤の健全化に取り組んできました。さらに、昨年度フランス甲南学園トゥレーヌ校を閉校することにより、より安定した学園財政の構築に一定の道筋をつけることができました。

平成26年度は学園創立100周年（平成31年）に向け、甲南新世紀（平成32年以降）が教育研究の精華をもたらしつつけられるよう、経営計画の策定・遂行に邁進する年度となります。したがって、教育力の増進を図るために学生実員を調整したことによる帰属収入の減少が予想されるなかで、消費税率8パーセントへの引上げが実施されること等を勘案すると様々の工夫対応を迫られますが、「人物教育率先・教育力の甲南」「集中・重点化された戦略的研究力の甲南」を推進することを中心に、積極的な取組と更なる発展の実現を目指し、以下の事業に取り組んでまいります。

I. 大学教育改革計画（中期教学計画）の推進

「平成24年度 大学の目標と方針」に掲げた「人物教育率先・教育力の甲南」の実現を目指し、教育改革会議等での議論を重ね、学園創立100周年に向けた中期教学計画（平成26年度から平成30年度）の基本方針案をまとめました。同計画では①人物教育の基盤としての共通教育の改革、②人材養成目的及び教育目標を実現するための教育課程の体系的整備、③教育改革を力強く推進するための「平生記念教育推進機構（仮称）」の設置も含む大学運営・執行体制の機能強化、④主体的学びの喚起・促進と教育・学修効果を高める環境整備、⑤人物教育にふさわしい学生受入制度の確立と体制整備及び高大接続・連携の強化、⑥学生をトータルに支援する全学的な体制・環境整備、⑦その他現状課題の解決と将来に向けた取組み、の7つの基本方針を掲げています。平成26年度は、学園経営計画の策定を推進する中で、これと練り合わせる形で、大学教育改革の基本方針及び基本計画の策定を目指します。また、この方向と呼応する特色のある先進的な取組を順次開始します。

II. 戦略事業の展開

(1) 法科大学院の展開

法科大学院は、平成26年度より新たに5年（プラス クッション期間1年）間の第3期プロジェクトを始動させます。法科大学院を取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、昨年度に10名、開設以来96名の司法試験合格者を輩出した実績を土台に、修了生が確実に初

回合格を達成し、全国でも中堅ロースクールとしての地位を確立するよう、学習指導、修了生の就職活動支援の更なる充実を図るとともに、昼夜開講・春秋入学制の定着を図り、政府が提唱する「魅力ある法科大学院」を目指します。

(2) 先端生命工学研究所 (FIBER) の研究推進

先端生命工学研究所 (FIBER) は、平成26年度より新たに10年の第2期プロジェクトを始動させます。同研究所は、この10年間で世界トップレベルの研究力を発揮し、世界的な評価を勝ち得るほどの実績を積んできました。第2期プロジェクトでは、人員体制の強化を図り、生命科学のフロンティアとして核酸分野の基礎研究・応用研究をより密度濃く推進するとともに、国際研究連携の中核拠点となり、「集中・重点化された戦略的研究力の甲南」を推進し、研究分野における甲南の国際的プレゼンスの一層の向上を目指します。

III. 高等学校・中学校新体育館等整備事業

学園創立90周年募金事業で計画された高等学校・中学校新体育館整備事業については、その規模を拡大し、新甲友会館 (食堂・柔道場・剣道場・文化部室・宿泊室) の建設、防災対策を含め、90周年から100周年へ向けての記念事業として高等学校・中学校再開発事業 (工期は約2年半) を位置づけ、平成25年7月より着工しました。平成26年度は、建設中の新体育館 (仮称)、新甲友会館 (仮称) 等の工事が安全に行われるよう設計監理者、施工者とともに工事管理を適切に行うことにより、長期にわたって安全快適に使える施設となるよう細部の設計について精査し、建物の完成度を高めます。

IV. 大学・大学院関係

1. 教育

(1) 共通教育・カリキュラム体系の改革

人物教育の現代バージョンは何かという観点から、学びへの夢を誘い、学びへの挑戦、意欲を喚起する共通教育を、各学部・各学科の科目体系の中に調和浸透させつつ、作り上げます。各学部・各学科は、相互に transactional な要素を強く持つカリキュラム体系を確立することを目指します。

(2) 主体的学びの喚起・促進

キャンパスの内外で学生が生き生きと主体的に学ぼう、教育手法の積極的な導入・開発、サイバーライブラリ内に設けた共同学修スペース等を活用した、チーム学修活動、グループ学修活動、アカデミックライティングの指導を実践的に試行するとともに、教務システムによる学修支援の充実を目的に、①Web ツールによる双方向の授業を可能とする新たな学修管理・支援システムの導入、②早期の履修計画を可能とする成績照会機能の追加、③全学の学修指導充実のための教務情報の積極的活用支援に取り組みます。

(3) F D 活動等教育改革への取組と教育力強化の支援・促進

(1)(2) の取組を進めていく上で、教員の教師力の構築・強化を支援するために、F D 活動等教育改革を進めます。具体的には、担当教員間・科目間の連携を推進し、4年間の正課と課外での活動への意欲喚起、学生の自立・成長を組織的に実現すること、及び教育の基本方針と3つのポリシーを具体化する取組を進めることを目指し、各学部におけるカリキュラム

マップ、カリキュラムツリーを、共通科目を吸収・消化し、学部間・学科間の transactional な柔軟性を含めて作成します。各科目においては、必要な学修がわかりやすく伝わるシラバスの作成を支援するシステムの構築に取り組みます。成績評価についても、人物教育の視点を活かすことができるような支援体制の構築を目指します。

※FD Faculty Development

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、さらには研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとして用いる場合もある。

(4) 各学部・センターの特長的な取組の推進

英語だけですべての会話・ダイアログを行うスペースの設置、演示実験を伴う授業開発、課題発見・解決を目的とする「プロジェクトゼミ」等双方向性、学生の積極参加、自立性等を喚起する試みを、体系的を持ちつつ展開していきます。

(5) 入学前教育の充実

入学後の教育プログラムとスムーズに接続できるように入学前教育の改良を図り、甲南独自の入学前プログラムを開発することに年次計画を立てて取り組みます。その中で甲南高等学校と協働し教材開発に向けた協議を開始します。

(6) 教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証

学士課程教育の質保証を甲南大学がどのようなレベルで、どのように確保していくかについては、甲南大学の特色をどう把握しどう実現していくのか、大きな課題であることから、その活動の一部としてIRネットワークを継続活用します。

※IR Institutional Research：大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(7) 国際交流・留学支援の推進

国際社会でグローバルに活躍できる能力を身につけた学生を輩出することを目的に、国際交流の体験、短期の留学体験、長期留学の実現をそれぞれ「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」として段階付けた各種留学制度やプログラムの充実に取り組むとともに、学生ニーズに応じた、新たな留学プログラムや協定校を検討します。留学生の受入については、短期プログラムを含めて定着しつつあるアジアプログラムの充実に努めます。また、学内での国際交流を促進し、留学経験を活かした国際交流活動への参加・貢献の機会を提供します。

(8) キャリア教育の推進

低年次からキャリア意識を啓発させ就業観を培うために、学部教育と連携を図り、体系的なキャリア教育プログラムを軸にきめ細かくキャリア教育を展開していきます。また、キャリア科目受講生への卒業後アンケート等の追跡調査を引き続き実施し、検証結果を教育内容等に反映させ、一層充実させていきます。

(9) 教員採用試験への取組

本学の教員養成の理念に則した教職課程の運営と全学的な教職指導の体制構築を目的に、①教育職員養成課程カリキュラム委員会の機能充実、②「教職実践演習」の充実、③教職基幹科目の設置とカリキュラムマップの作成に取り組みます。また、教職志望者には、教員採用試験の受験に向け、センター教員と教職指導員を中心とした面接対策講座、外部機関によ

る講座や模擬試験等を実施します。

(10) スポーツ教育力の強化支援

全体育会団体からスポーツ教育力を引き出し、甲南生の模範となる学生アスリートを育成することを目的に、従前の各種スポーツ強化支援制度を改革するとともに、甲南スポーツを通じた一般学生・教職員・卒業生の帰属意識の向上を目的に、試合の観戦や応援につながるキャンパス活性化の仕組みを構築します。

(11) 自己点検評価の推進、内部質保証システムの構築

平成25年度に受審した大学、法科大学院の大学基準協会における認証評価、及び社会科学研究所会計専門職専攻の自己点検・評価結果等を踏まえ、今後の課題とされた学修成果や内部質保証を重視した評価のあり方について、改善を重ねます。また、学園創立100周年に向け、これからの100年にも通じる教育の構築を目指し、創立者平生鈆三郎の建学理念である「人物教育の率先」を具現化する教育課程を編成し、学生の教育に効果をもたらす取組の充実を図ることにより、教育の質を保証していきます。

2. 研究

(1) 学内の各種研究助成による研究支援

学園の教育・研究の推進、充実を図るべく「平生太郎基金」、「甲南学園教育・研究基金」等の運用果実をもって、研究、出版、外国人研究者の招聘等の事業に助成、補助を行います。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「環境応答を司る細胞ネットワークの機能発現の分子細胞メカニズムの解明」（統合ニューロバイオロジー研究所 期間：平成25年度から5年間）の事業を推進します。平成26年度の同事業には、自然科学分野から一件、申請しています。

(3) 研究支援体制の強化

フロンティア研究推進機構が核となり「科研費申請説明会」等を開催し、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得に向けた情報提供を随時行ない、補助金事業の正しい理解の促進と、きめ細かいサポートを行うとともに、本学教員の最新のシーズ情報、研究成果を積極的に学外へ発信します。また、平成23年度に導入した科学研究費管理システムの活用等により、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に対応して組織の管理責任の明確化を図り、公的研究費の適正な執行管理を徹底します。

(4) 知的財産管理・活用体制の構築

本学における知的財産の取扱いについて、「発明規程」の運用見直しを図り、審査請求や特許維持の費用対効果を適正化し、休眠特許の整理や休眠特許を作らない仕組みづくりを引き続き検討していきます。また、知財・産学連携アドバイザーの協力のもと、本学保有の知的財産の有効活用を推進していきます。

3. 学生支援活動

(1) 学生生活支援体制の充実、修学支援を必要とする学生への対応

学生生活支援委員会の機能が発揮できるよう運営の確立と定着を図るとともに、学生生活支援を取り巻く環境変化に対応して、学生生活支援関連組織の活性化・連携強化、経済的支援体制の強化・充実に取り組みます。また、身体的障がいや発達障がい等を有する学生、メンタル面のケアが必要な学生の増加に対応して、医務室の看護師有資格者のスタッフを増員し、学生相談の体制強化を図ります。

(2) 奨学金・表彰制度の充実、貸与制奨学金の検証

学生のより高い意欲を引き出すために、優秀な学生（成績、スポーツ、留学等）への表彰制度、給付制奨学金の充実を図るとともに、同窓会とも協力し、学内給付制奨学金受給者・特待生で構成される「甲南スカラシップ倶楽部」の充実・拡充を図ります。また、学内の貸与制奨学金については、そのあり方を検証し、学生ニーズに対応した制度への転換を図ります。

(3) 学生生活の活性化、問題行動への指導強化

在学中に課外活動で顕著な活躍をした学生には、学長表彰・学長顕彰等各種表彰を行うとともに、引き続き、甲南大学父母の会から支援いただく「父母の会・学生G P」を活用し、学生と教職員の協力の下、学生が主体的に行う様々な取組を喚起します。

一方、学生の問題行動等に対しては、継続的な指導に努め、マナーの向上を図ります。特に喫煙対策については、学内パトロールを継続実施し、受動喫煙防止に積極的に取り組みます。

(4) キャリア形成・就職支援

学生の進路満足度を高めるために、学生一人ひとりを大事にする親身なサポートと質の高い進路支援を継続して実施します。平成27年度卒業・修了予定者より、活動時期がさらに後ろ倒しとなることから、採用市場の動向や学生生活の変化に応じた適切な支援を手厚く実施していきます。

(5) 課外活動団体に対する活動支援

体育会、文化会、任意団体の課外活動や学生間交流の活性化を促進させるために、学生自治会と連携を密にし、共働互助の精神を持って学生の活動を支援するとともに、施設面での申請手続きの効率化を推進します。また、課外活動団体の指導者を対象とした「安全講習会」、「指導者講習会」を実施し、指導者との関係を深め、指導者と共に学生指導を充実させます。

(6) 保護者との関係強化

父母とのコミュニケーションを図るため、その中心的な行事である「教育懇談会」を充実させ、教職員との直接的な対話の機会を増やします。各地での教育懇談会についても、開催地の増設、ローテーションを見直し、これまで案内の行き届かなかった地域をカバーする体制を確立します。また、キャリアセンター、各学部においても保護者を対象とした就職活動に関する説明会・講演会、個別学修相談等を適宜実施し、保護者との関係強化に努めます。

4. 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

神戸市東灘区や御影クラッセとの地域連携協定に基づく取組を展開するとともに、地域連携センター（KOREC）を中心とした、全学的な地域連携活動の強化・充実を図ります。また、学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、六甲アイランド体育施設

を活用したイベント、図書館・サイバーライブラリの地域公開利用等地域とのつながりを深める取り組みを行います。

(2) 教員免許状更新講習会等の開講

現行法において教員免許が失効する教員（卒業生含む）に対して、教職課程設置大学の責務として実施する免許状更新講習の開講を通じ、教育委員会・現場教員との連携を図ります。また、独立行政法人科学技術振興機構（J S T）等が支援する各種連携事業への企画申請、採択・実施を目指します。

(3) 産官学連携の推進

本学の有する知的資産（人材、研究成果、特許等）を有効活用するために、関西圏を中心とした産学連携に有望な各種展示会に積極的に参画し、情報発信を行います。東京においては、研究成果の見本市「イノベーション・ジャパン ー大学見本市ー」への出展や新技術説明会への参加等を通して、本学教員との共同研究や受託研究に発展するよう支援してまいります。また、本機構と関わりのある産業界、官公庁、そして卒業生や地域住民等との、より緊密なネットワークを強化するために、「産官学交流サロン」を引き続き、展開します。

(4) 自治体連携・大学間連携の推進

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の理事長校として、企画運営委員会活動でコンソーシアムのあり方の検討や各種委員会活動をサポートするとともに、本学が事務局を担当している学生交流委員会の活動を通じて、加盟大学の教員、職員、学生間での交流の活性化を図ります。また、神戸市大学連携室との共同事業である「大学都市“神戸”の魅力発信プロジェクト」に参加します。マネジメント創造学部においては、「西宮市大学交流協議会」において、大学共通単位講座や市民対象講座等に講師を派遣する形で、地域の貢献を担います。

(5) 生涯学習・スポーツ振興の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座、ジュニアスポーツクラブ等を通じて、社会人・子ども達に生涯学習やスポーツの機会を提供します。

5. 環境整備

(1) キャンパス整備の推進

学園創立100周年を視野に入れた中期課題、「教育力の甲南」を具現化するための施設設備の充実、安全・安心なキャンパスづくりのために、①岡本キャンパス学生会館エリア再開発のシミュレーション、②各キャンパス既存施設の利用実態・問題点を踏まえた改修工事の実施、③学生の主体的学びを喚起・活性化させるための教室及び施設設備の提案、④これまで取り組んで来た防犯設備の拡充、⑤非構造部材耐震化対策、特に大規模空間の天井落下防止策の実施、⑥防災訓練の改善と災害備蓄品の整備に取り組めます。

(2) 情報インフラ整備の推進

無線LAN環境のセキュリティ強化、認証方式の統一化、キャンパス全エリアを通信接続可能エリアとすることを目標に、段階的にアクセスポイントを設置し、通信機器を更新します。また、持ち込みの端末の利用に対応できるよう、多様な端末やOS、ブラウザなどのアプリケーションの検証を行います。

6. 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 学生募集活動の強化

Konan-oriented（甲南志向）の学生の受入を目指し、入試結果の分析・評価、入試制度の検証、学生募集戦略・実施計画の改善を図るとともに、学生募集・入学試験を効率的かつ効果的に実施しうる体制を構築します。「育成型」入試の実現に向け、早期より統一的なメッセージを発信し、本学の特色や情報をリアルタイムで動画配信するなど、広報展開の強化を図ります。

(2) 甲南高等学校との連携・高大接続の推進

建学理念に基づく人物教育を目的とした一貫教育体制の確立を目指し、連携プログラムの拡充や接続の在り方の見直し等、甲南高等学校との高大接続の新しい仕組みの構築についての取り組みを進めます。

(3) 協定校との連携・高大接続の推進

協定校制度においては、協定校の拡充及び参加学部の拡大を促進するとともに、高校・大学双方の共通課題である高大接続や、進学・受入の体制整備等について、協議・検討を推進します。各学部・大学院、研究所にあつては、引き続き出張講義、模擬講義を実施します。

V. 高等学校・中学校

1. 教育

学力の向上とマナー教育の徹底及び授業第一主義を目指し、以下の項目に取り組みます。

(1) 中高新コース制の実施

本年度中学1年生より「フロントランナーコース」「アドバンスコース」の2コース制を実施します。「フロントランナーコース」は週38時間の授業と長期休暇中での特別授業を実施することで、確かな学力と科学的な思考力や国際社会で活躍できる力を育みます。「アドバンスコース」では週35時間のバランスの取れた文理型カリキュラムで、探究活動を積極的に展開し、教科内容をより深く学びます。両コース共に英語の4技能「読む」「書く」「聴く」「話す」を進展し、英語コミュニケーション能力の向上を目指し、それぞれのコースの特色が実現するよう運営します。

(2) 学習活動・学校生活支援活動（進路支援活動含む）の推進

日常の学習意欲喚起の体制を構築し、学力の向上・定着を図るため、①各教室のプロジェクトをはじめとするAV・IT機器の活用促進、学習活動の質的向上と同AVシステムの一斉配信機能を利用した平生精神やマナー教育の充実、②読書習慣を身につけるための学年文庫の利用促進とともに、「朝読」の継続実施や総合学習・E-study等図書館利用教育の更なる推進、③英語教育については、「多読プログラム」に関する図書充実や、ネイティブ教員における「サマーキャンプ」「チャンツコンテスト」「英語劇」、中学2年生を対象とした「イングリッシュキャンプ」、文化祭での「English Festival」の実施、「オーラルコミュニケーション教育」等での4技能（読む・書く・聞く・話す）と「言語技術」の修得、④学習センターでの放課後学習支援の充実、⑤高校一年生を対象としたオリエンテーションの開始、⑥メールマガジンやe-learningを活用した家庭学習との連携、⑦生徒・保護者の心のケアのためスクールカウンセラーの常駐化、⑧海外協定校とのクラブ間交流の推進、⑨新高校一年

生・新高校二年生を対象とした学習合宿を実施します。

(3) 「グローバル・スタディ・プログラム」の充実

文Iコースの生徒を対象とした「グローバル・スタディ・プログラム」独自の実践的な英語力の育成や「言語技術教育」「国際政治・国際経済」「東アジア交流・関係史」等の学びを通じ、教科間の連携を保ちながら国際理解教育を推進するとともに、対外的な活動にも積極的に参加し真の国際人を育成します。本年度は、イギリス・アメリカ・ニュージーランド（約10週間）、カナダ（約6ヶ月間）への海外留学に加え、国際ビジネスや多民族・多国籍文化を体感する約1週間のシンガポールスタディツアーや、フロントランナーコースに先駆け、優秀なアメリカの現役大学生を招聘するエンパワーメントプログラムを実施し、更なる充実を図ります。

(4) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために、①中学1年生・2年生を対象とした、校長・副校長による道徳教育の実施、②中学3年生を対象とした社会で活躍する卒業生を講師に招聘した「OBワークショップ」の実施、③「理科特別実験」、教科「情報」、「特色ある科目」等を中心に高大連携授業の充実と甲南大学での講義や公開講座等の受講検討、④弁護士を講師とした「人権学習講演会」の実施、⑤甲南大学広野校地での農作業や住吉川環境学習等による甲南小学校・甲南女子中高との連携強化を図ります。

2. 教育力の向上

新コース制導入と実施にあたり、その成否は、校長のリーダーシップ、教科・学年団の教員組織の活性化、教員個々の能力向上、ひいては学校の組織力向上にかかっています。校外の研修会やセミナーでの研鑽をはじめ、校内においても授業相互見学等の教員研修会を充実させ、互いに切磋琢磨できる教員集団をつくり、教員の教科教育力、生徒指導力を含む教化力の向上を図ります。

3. 環境整備の推進

安心・安全・快適な環境整備のために、竣工後17年が経過する校舎の空調の更新、省エネも考慮した教育環境の改善、長年の課題であった小グラウンド内のトイレ設置等をはじめとした、定期的な施設・設備の点検・改修・修繕を実施します。

4. 生徒募集・入学試験に係る活動

創立者平生鈇三郎の教育理念である「徳・体・知」のバランスのとれた「世界に通用する紳士」の育成、「ひと創り」の教育と独自色豊かな教育内容、及び新コース制の導入をより広く効果的にPRし、より多くの受験生の掘り起しと確保を図ります。これら目的達成のために、学内外での入試説明会をより充実させ、特に校内での説明会では教職員全員参加で実施します。また、教育情報誌や新聞等の広告媒体に加え、学校情報サイトや交通広告等を有効に活用し、生徒募集活動をより一層強化します。

VI. 法人

1. 管理運営

(1) 学園創立100周年に向けた計画骨子の検討

学園経営計画の策定にあわせて、学園創立100周年に向けた計画骨子の作成に着手します。

(2) 学園史資料等の整理・活用の強化

学園創立100周年を見据え100周年史編纂に着手し、併せて学園史資料、平生鈆三郎関連資料の収集と整備に努めます。また、平生鈆三郎日記翻刻については編集体制の維持を図り、大正・昭和史資料としても貴重な「平生鈆三郎日記」の安定的・継続的な刊行を行っていきます。

「貴志康一記念室」「長谷川三郎ギャラリー」においても、広報活動の強化を図り、甲南学園のブランド力の向上を図ります。

(3) 募金の活動の強化

大学、高等学校・中学校の特色ある教育に期待を寄せる保護者の方々を中心に「教育振興募金」の活動を継続するとともに、学園100周年記念募金活動の準備を開始します。

(4) 労務・法務、リスク管理体制の強化

総務部と人事部を統合したメリットを活かし、労務・法務管理の充実を図り、契約審査、法務相談体制を強化するとともに、研修や啓発活動によって高いコンプライアンス意識を備えた人材を育成します。また、全学リスクに迅速に対応できるよう事業継続計画(BCP)の策定を推進するとともに、監査部による、これらのモニタリングと各種規程監査を実施します。

(5) 中期的な人事政策の策定、職員研修体系の充実化、労働安全管理体制の実質化

組織の統廃合、業務の効率化を推進しつつ、社会の変化に適応した中期的な人事政策の策定に取り組みます。また、専任職員行動指針に基づく専任職員の研修体系の充実に注力し、評価と分析を行い、能力向上に努めます。さらに、教職員が心身両面で支障をきたすことがないように、労務管理意識を向上させ、変化の激しい労働行政に柔軟に対応しつつ、労働安全管理体制の実質化を図ります。

(6) 学校法人会計基準改正への対応

平成27年度より実施される学校法人会計基準の改正を見据えた対応を展開し、より広く分かりやすい財務情報の開示と説明を目指します。

(7) 奨学助成基金の充実

給付制奨学金をより充実させるため、第3号基本金への組入れを継続します。また、平成25年度に富和子様からの遺贈募金により創設された「平友奨学基金」を運用します。

(8) 有形固定資産データの活用、資産管理の適正化

資産管理システムの登録データを活用し、長期修繕計画、基本金計画、減価償却額のシミュレーション、固定資産取得計画等に資することのできる基礎データの作成に着手します。また、絵画、美術工芸品等の管理体制を構築し、これらの増減を適正に管理します。

(9) 学園情報基盤の再構築

教育系・事務系ネットワークを束ねた情報システムの基本方針等を定め、学園情報基盤の

再構築を図ります。また、情報教育研究センター事務室の運用管理業務と総務部事務システム課の業務を統合し、新たに「情報システム室」を設置し、情報セキュリティの対策強化、適切な情報化投資、運用管理コストの削減を実現します。

(10) 貸与制奨学金の回収

本学の貸与制奨学金の返還を10年以上延滞しているに奨学生に対し、引き続き、法的な措置を含め適切な回収を図ります。

(11) ネットワークキャンパス東京の活動強化

ネットワークキャンパス東京の体制・事務機能を整備拡充するとともに、3キャンパスとの連携のもと、学園の首都圏における活動拠点、首都圏への情報発信基地として、教育研究・学生支援、首都圏の各種情報の収集活動を展開します。

2. 広報活動・卒業生との連携

(1) 広報活動の充実・ブランド力の向上

本学園は、阪神間の培った深く広い「教養」と「人間性」の中で、世界的にも活躍し、その名を歴史に留める人物を輩出する教育機関であることを広く学内外に訴求し、本学園の価値を向上させる広報活動を展開するとともに、広告効果をより高めるための企画を立案します。

(2) スポーツ・芸術活動への協賛

社会公共機関として、青少年の育成支援、地域社会への貢献を目的に、ヴィッセル神戸をはじめ、兵庫県芸術文化センター・佐渡裕氏等のスポーツチーム・芸術活動に協賛するとともに、社会的責任を果たすべく、本学・本校での課外活動等を通じた企画をこれら協賛先と展開し、スポーツ・芸術による薫陶の還元を図ります。

(3) 卒業生との連携強化

年に一度のホームカミング・イベントとして、一人でも多くの卒業生に参加・満足いただける「オール甲南の集い」を、引き続き、同窓会と共同で開催します。また、卒業生との対話を学園運営に活かすべく各地甲南会等との関係強化を図ります。